

【アクラとプリスキラから学ぶ／メッセージノート】

「その後、パウロはアテネを去って、コリントへ行った。ここで、アクラと言うポント生まれのユダヤ人及びその妻プリスキラに出会った。クラウディオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近頃イタリア（ローマ）から来ていたのである。パウロは二人の所に行き、自分も同業者であったので、その家に住んで一緒に仕事をした。彼等の職業は天幕作りであった」（使徒18:1-3）

「追放」により、アクラとプリスキラが失った多くのものと抱いた感情。

- ・①住み慣れた町。②多くの友人達。③仕事（取引先／馴染みの客達）。
- ・①不安、②恐れ。

パウロと出会った後、アクラとプリスキラが行ったこと。

- ・①パウロの伝道の拠点として、自宅を提供した。そして、コリントに巨大な教会が建設された（使徒18:1—11）。
- ・②エペソ教会の礎を作った（使徒18:18、1コリント16:19）。
- ・③アポロに福音の真理を伝えた（使徒18:24—28）。
- ・④ローマに戻って、奉仕した（ローマ16:3）。

「神を愛する人々…のためには、神がすべてのことを益として下さることを、私達は知っています」（ローマ8:28）。

今の不自由な不安な状況をどう乗り越えて行ったらよいか、その方法。

I 【 】です。

「わたし（神様）の思いは、あなた方の思いとは異なり、わたしの道は、あなた方の道とは異なるからだ。一主の御告げ一天が地より高いように、わたしの道はあなた方の道より高く、わたしの思いはあなた方の思いより高い」（イザヤ55:8—9）

II 【 】です。

III 【 】です。

「よくやった忠実なしもべだ」（マタイ25:21、25:23）

（適用）アクラとプリスキラは、最後、自分達の人生を振りかえった時、追放されたのは、このためだったのかとやって、神を褒めたたえた事でしょう。

私達にも、いつか神を褒めたたえる日が必ず来ると信じます。

神に信頼し、あきらめず、忠実であり続けましょう。